

<h1>HOMAS</h1> <p>日本語版 ニュースレター</p>	<p>No. 65 平成 24 年(2012 年)3 月 15 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫</p>
<p><i>Hokkaido Massachusetts Society</i></p> <p>北海道・マサチューセッツ協会</p>	<p>発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp</p>

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち

アメリカ人宣教師ピアソン夫妻の生涯と滞日 40 年間の業績

- 北海道各地で、過酷な生活を続ける開拓者たちに愛と忍耐と勇気の伝道活動 -

まえがき

アメリカ人宣教師ジョージ・ペック・ピアソン(George Peck Pierson)(1861~1939)は、米国ニュージャージー州エリザベス市の長老派教会牧師の家庭に生れ、1888年(明治21年)、日本伝道の命を受けて来日、東京の明治学院などで教えた後、1893年(明治26年)北海道に渡り、函館・室蘭・小樽・札幌・旭川・北見の各地で、過酷な生活に苦しんでいた開拓者たちに、愛と忍耐と勇気の伝道活動を続けました。ピアソン夫妻の活動は、明治の女子教育、監獄への訪問、廃娼運動にまで及び40年間にわたるものでした。

今回は、このジョージ・ペック・ピアソン(1861~1939)と米国聖公会婦人宣教師アイダ・ゲップ(Ida Goeppe)(1862~1937)夫妻の北海道における伝道活動を中心に、北海道の開拓に貢献したその生涯と業績をたどってみたいと思います。

時代背景

明治政府の開拓使設置(1869年<明治2年>7月)によって本格的に進められた北海道の近代化の歴史を直線的に語ることはできません。幕末から困難な開墾に苦悩してきた開拓移民の歴史、先住民アイヌとの交流、さらに屯田兵制度による開拓政策などいろいろな側面があります。また多くの外国人指導者・宣教師などが、北海道開拓に果たした役割・業績にも大きいものがあります。

ペリー来航(1853~54)によってもたらされた開港を契機として、明治政府は急速な近代化を迫られます。そのために、先進諸外国より多くの指導者・技術者を招聘し、「お雇い外国人」として雇用しています。全国的な外国人雇用は、広範な分野にわたり、その実態を把握するのは、資料的に難しいのですが、ユネスコ東アジア文化研究センター「資料御雇外国人」には、1868年(明元)~1889年(明22)の間の官・公・私雇合計2,299人という記録があります。

そして、北海道開拓使「お雇い外国人」は、1871年(明4)~1881年(明14)の10年余の短期間に78人を招聘しています。これは、ロシアの南下政策に危機感を抱いた明治政府が、北海道開拓を急務としたことによります。78人のうち、48人までがマサチューセッツ州を中心としたアメリカ人でした。この経緯については、これまで詳細に取り上げてきましたので割愛しますが、今回は、アメリカ人宣教師夫妻の北海道開拓に果たした、献身的な貢献とその業績に着目したいと思います。

ピアソンの生い立ち

ジョージ・ペック・ピアソン(1861~1939)は、1861年1月14日、米国ニュージャージー州の首都エ

リザベス市に、長老派教会牧師の息子として生まれました。南北戦争(1861-1865)が始まった年でした。アメリカでは、この南北戦争で流された多くの血により、キリスト教会の平和を願う信仰復興・国内外への伝道が一層盛んになったといわれます。

大学教授の祖父、牧師の父を持つピアソンは、幼時から熱心なキリスト教徒として育てられます。ピングリー中学校でピューリタニズムの信仰と豊かな知性・特性を磨き、1882年(明治15年)ニュージャージー大学(現プリンストン大学)卒業、4年間教職に就きます。その後、プリンストン神学校(1885-1888)に学びます。このころ、ドイツ人宣教師が日本語に翻訳した日本語の聖書と出会います。現在でも、世界に僅か16冊しか残っていないという貴重な聖書を、牧師の父から貰い受けたのです。これが、遠い東洋の島国「日本」との最初の出会いで、まだ見ぬ日本への憧れとなったといわれます。1888年(明治21年)神学校を卒業したピアソン(27歳)は、6月21日エリザベス市のウエストミンスター長老教会で父から牧師の資格を受け、同時に長老派教会海外伝道の日本派遣宣教師に任命されます。ピアソンは、さっそく胸躍らせて、日本行きの準備に取り掛かったといわれます。

宣教師として来日

1888年(明治21年)8月21日、米国長老派教会宣教師ピアソンを乗せた船は、横浜へ向けて出港します。秋風の吹く横浜港に着いたのは、約1ヶ月後の9月10日でした。到着して10日目に、長旅の疲れなどが重なって腸チフスに罹り、1ヶ月間、生死の境をさまよったそうです。回復後は、助かった命を神に感謝し、日本人のために尽すことを改めて、心に誓ったといわれます。

最初は、明治学院で英語・新約聖書を教えますが、島崎藤村、戸川秋骨もその講義を受けています。ピアソンは、日本語の勉強に打ち込み、ずば抜けた日本語の語学力を身につけたといわれます。その能力の高さは、後に皇室からの通訳の要請を受けるほどのものでした。しかし当時、キリスト教の弾圧が強まり、ミッションスクールである明治学院の生徒数は激減し、ピアソンは、明治学院を去ることになります。

1890年(明治23年)5月から、千葉県尋常中学校の招きで英語教師となり、そのかたわら千葉、佐倉などの田舎伝道活動を行います。1892年(明治25年)、米国オランダ改革派教会宣教師ミラー夫妻の要請を受けて盛岡に移り、東北農村の伝道活動を続けています。そこで、多くの若者達が北海道開拓に向かうのを知り、ピアソン自身もいよいよ北海道へ行くことを決意します。

<1893年・明治26年、休暇で一時帰国しています。>

北海道 函館、小樽へ

1892年(明治25年)31歳の時、ピアソンは、北海道に渡り調査しています。1893年(明治26年)、函館に居住して、室蘭・伊達地方まで伝道に出かけています。北海道の開墾・開拓に苦勞している人々に熱心に語りかけています。さらに小樽・札幌にも伝道に出かけています。

1894年(明治27年)、ピアソンは、小樽(現小樽駅前中央通)に住居をかまえ、札幌を中心に道央・道南に伝道活動の範囲を広げます。また小樽のミッションスクール静修女学校(創立者のロース宣教師死去のため短期間。現在はロース幼稚園として残る)の設立に協力し、学生への伝道にも力を入れました。

1895年(明治28年)2月頃から健康を害し札幌に転居、6月12日に米国聖公会宣教師アイダ・ゲップと東京で結婚します。ピアソン33歳、アイダ32歳でした。この出会いは、その後の数々の困難に立ち向かう布教活動の新たな出発点となります。

<宣教師団主治医から約1年間の静養を勧められ、6月15日にアメリカへ新婚旅行で帰国、翌年日本に戻ります。>

アイダ・ゲップの略歴

アイダ・ゲップ(1862-1937)は、1862年4月21日、米国ペンシルベニア州フィラデルフィアで弁護士家庭に生まれ、7歳の時母の死によりドイツ在住の叔母のもとで育ち、シュトゥットガルト高校を卒業。その後、ニューヨークに戻り、ハンター・カレッジに進学、1883年(明治16年)卒業。1890年(明治22年)米国聖公会宣教師として来日し、日本語・女子教育研修後、9月からセント・マーガレット女学院(立教女学院)の英語教師となります。そして1894年(明治27年)、福島に移り、伝道活動に専念していました。アイダは、強い自尊心と使命感に満ちた、多弁・雄弁でエネルギーギッシュな女傑であったといわれます。 <後に、温厚なピアソンは、自分は結婚以来ずっと彼女の後に坐りっぱなし・・・などと述懐しています。 >

札幌、旭川へ

1897年(明治30年)、札幌中央区北4条西1丁目、スミス女学校宣教師館)に移ります。サラ・クララ・スミス(1851-1947)が、明治20年に開校した札幌のスミス女学校(現在の北星学園)で教えながら、道内各地で伝道活動を行います。この間、札幌農学校(現北海道大学)でも教えています。アイダも札幌農学校でドイツ語を教え、学生の中に有島武郎もいたということです。

1900年(明治33年)、ピアソン夫人は、3月、「アイヌと悪しき飲酒」・4月「廃娼とアイヌの飲酒」などを発表しています。

1901年(明治34年)3月、旭川(旭川市2条通11丁目)に転居。旭川では、13年間伝道活動を行っています。その後、活動の領域をさらに広げて、山口庄之助牧師と共に、遠軽・野付牛地域、道北の美深・名寄・士別地域などの農村開拓者への巡回伝道に出かけています。また旭川中学校で英語を教えています。この間、アイダは第七師団の将校にドイツ語を教えています。

1902年(明治35年)3月、旭川キリスト教婦人矯風会設立、11月16日、坂本直寛<50歳・坂本龍馬の甥>が牧師として旭川教会に着任し、以来協力して軍隊・監獄伝道、廃娼運動を推進することとなります。第7師団の軍人たちへの伝道は、キリスト教弾圧の厳しい本州とは違い、ピアソン夫妻は快くむかえられましたが、軍人の多い旭川での遊郭廃止・廃娼運動は難航しました。遊郭そのものが女性人身売買の非人道的なものとして、特に夫人は強く住民に呼びかけて嘆願書を国会に送り、道庁にも訴えましたが、結局願いは叶わず、遊郭は公認されたのでした。

1903年(明治36年)「旭川聖書館」を建て、聖書普及・文書伝道に努めています。また、英国聖公会宣教師ジョン・パチェラーと協力して近文のアイヌ部落の伝道にも出かけ、アイヌの生活援助・教育支援も続けています。酋長の娘で夫に先立たれた婦人をメイドとして引き取り、アイヌの孤児も我が子のように育て、帰国するまで生活を共にし、教育もしています。

<1904年(明治37年)2月、ピアソン夫妻休暇で帰国、翌年6月日本へ帰国。 >

1907年(明治40年)帯広の十勝監獄教諭師となり、10月5日、坂本直寛牧師とともに、ピアソン夫妻に伝道の機会が与えられました。日曜日の朝、監獄大ホールで8百余名の囚人に説教をし、さらに囚人たちの求めに応じた説教に、多くの囚人たちは自分達の罪を悔いてむせび泣き、さらに看守・職員までもすすり泣いたということです。その後、約5百名が入信する決心をしたといわれます。

この帯広監獄伝道の1件は、全国に広まり、ピアソン夫妻は一躍全国的に有名になりました。ピアソン家には、この時の囚人たちが出獄後にお礼として持ってきた家財道具が多くあり、その後もまた訪ねて来る者は後を絶たなかったといわれます。

1908年(明治41年)10月、小樽港より宗谷海峡を経てオホーツク沿岸各地、北見枝幸、雄武、湧別、佐呂間、野付牛、美幌地域の巡回伝道を行い、帰路は陸別より鉄道を利用して池田、帯広を経

て旭川に戻っています。1910年(明治43年)3月25日、小樽静修女学校卒業式(卒業生8名)にピアソン出席。1912年(大正元年)には、長年にわたる「略註旧新約聖書」編纂などの業績により、プリンストン大学神学博士称号を受けています。 <1913年・大正2年3月、休暇で帰国しています。>

そして、北見へ

1914年(大正3年)5月、ピアソン夫妻は、13年間住んだ旭川を去り、さらに奥地の野付牛(現在の北見市)に転居します。この地は、明治30年頃から屯田兵や、四国高知から入植した開拓移民団「北光社」(坂本龍馬の甥、坂本直寛を社長とする開拓団)のキリスト教部落がありました。新しい「聖なる村」建設の理想を掲げて入植していることもあり、彼ら開拓団の励ましのため北海道最後の拠点と決めたと考えられます。その後のピアソンの地方への訪問伝道活動は、道北・道東各地の辺境の地にまで及びます。1916年(大正5年)1月、紋別劇場で伝道集会を開催しています。また、このように多忙な伝道の合間に完成させた「略註旧新約聖書」を、この年6月に自費出版しています。

1914年(大正3年)に、この伝道活動の拠点となる大きな家「ピアソン館」を建てています。それは、現在の北見市の、榎や柏が生い茂る小高い丘の上に建てられたスイス山小屋風の木造2階建の家でした。人々は、この二人の白人の外国人の住宅に対して、最初は遠巻きにみていました。しかし、その後ガス灯を壊したり、庭の植木を引き抜いたりなどの嫌がらせが続きますが、ピアソン夫妻の熱心な伝道に、次第に北見の人々も心を開くようになり、多くの人々がピアソン家を訪れるようになったのです。後には、この御殿のような西洋館は、庭に3本の柏の大木があることから、「三柏の森」と呼ばれ親しまれたそうです。



ピアソン夫妻



現在のピアソン記念館

特に、若い世代への伝道に力をいれ、野付牛中学校(現北見北斗高校)の学生のために、「学生寮」を自費で建築します。遠くから通う貧しい子供たちを無料でお世話したのでした。

また、ハッカと木材の好景気に沸いた北見に、料亭の主人等が積極的に動いて遊郭設置の話が持ち上がり、1916年(大正5年)、夫人は堅い決意で反対運動に立ち上がり「婦人矯風会野付牛支部」を結成して反対運動を展開しました。買い集められた農家の若い娘達を、大金をはたいて連れ戻し、帰るところのない娘たちは、確実な落ち着き先が見つかるまで、自宅にかくまいました。その噂は町中に広まり、恨みを買ったピアソン夫人が、料亭の主人に棍棒で殴られて大怪我を負うという事件まで起きています。しかし、ついに北見の町に遊郭は出来ませんでした。

1918年(大正7年)7月13日、内村鑑三を招き、野付牛で講演会を開催。この年、「北光社」開拓団の人たちのため、訓子府伝道所を開設しています。さらに、若い世代への伝道に力をいれ、1924年(大正13年)には、野付牛中学校(現北見北斗高校)生徒のために、「ピアソン寮(学生寮)」を自費で建築

します。寮父には野付牛中学校の佐藤猪之助校長を迎えています。そして、遠くから通う貧しい、多くの子供たちを無料でお世話したのでした。

ピアソンは、もっとキリスト教を学びたい日本人のために多くのキリスト教関係図書・聖書などを集めた「聖書館」をつくり、また長い期間をかけて自分なりの解釈で、日本語の「ピアソン聖書」(「略註旧新約聖書」編集の大事業)を執筆しました。これは、長年、人を信じ深く愛する心で伝道を続けてきた成果で、後々、多くの人々の心の糧となったといわれます。(こうしたピアソンの業績にたいして、母校プリンストン大学から、神学博士の称号を贈られたのでした。)

1926年(大正15年)8月15日、野付牛町の開拓30周年記念式典で、ピアソンは、開拓功労者の一人として表彰されています。 <1928年(昭和3年)6月、ピアソンは宣教師を引退。 >

晩年

1928年(昭和3年)5月10日、ピアソン夫妻の盛大な送別会。北見の人々に慕われ尊敬されたピアソン夫妻は宣教師の任務を終えて、15年間住みなれた北見を去り、アメリカに帰国します。ピアソン67歳。妻66歳。5月15日出発の日には、大勢の人々が北見駅に集まって賛美歌を合唱して、涙を流して別れを惜しんだのでした。ピアソンは、最後に「これで私たちがいる遠いアメリカを見てほしい」と言って、望遠鏡(現在、ピアソン記念館にあります)を託して目にいっぱい涙をためていたといわれます。こうして多くの迫害と困難を乗り越えて伝道を続けてきた滞日40年、そして各地域での住民との楽しかった思い出を胸に日本を離れたのでした。

帰国後は、ピアソン夫妻は、夫人の故郷フィラデルフィアに居住し、著作活動に専念したようです。1937年(昭和12年)3月13日、夫人アイダ・ゲップ・ピアソンが死去(74歳)。翌年1938年(昭和13年)、ピアソン夫妻共著の「Forty Happy Years in Japan(楽しかった日本の40年)」を出版しています。そして、1939年(昭和14年)7月31日、ジョージ・ベック・ピアソンが、フィラデルフィアで、糖尿病のため78歳でこの世を去りました。

ピアソン夫妻を記念するもの

ピアソン記念館(北見市幸町7丁目4-28)

ピアソン夫妻が15年間暮らした私邸。榆や柏の大木に囲まれた木造2階建の西洋館で、1914年(大正3年)建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により建設されました。1970年(昭和45年)北見市が、私邸を記念館として復元、翌年6月、ピアソンの遺品や活動を紹介する「ピアソン記念館」として開館しました。記念館までの通りは、「ピアソン通り」と命名されています。現在は、NPO法人ピアソン会の管理。2001年(平成13年)10月22日、北海道遺産に選定。1969年(昭和44年)6月12日、米国ニュージャージー州エリザベス市と北見市は姉妹提携を結んでいます。現在も交流が続いています。

<主な参考文献及び参考資料>

「第4集 ほっかいどう百年物語」STVラジオ編 中西出版 「田舎伝道者 ピアソン宣教師夫妻」小池創造著 北見教会出版 「G.P.ピアソン小伝」小池創造著 北見市ピアソン記念館発行 「六月の北見路」ピアソン著 小池創造・吉田邦子訳 「ピアソン夫妻と私邸設計者ヴォーリズとの接点」久保勝範 北見市史編さん事務室発行 「北見市史」下巻 北見市史編さん委員会 「北見現代史」北見現代史編集委員会 「楽しかった日本の40年」(翻訳改訂版(使徒はふたりで立つ) 小池創造・小池 榮 訳 日本キリスト教会北見教会ピアソン文庫出版 「ピアソン夫妻を巡る証言集 三柏のもり」) NPOピアソン会編集発行 「日本 北海道 明治四十一年」翻訳 北原 俊之 NPOピアソン会発行 各地の現地リサーチ資料 インターネット資料など

平成 23 年度 第 3 回 国際交流ランチセミナー記録

～バレンタインデー・異文化交流の昼食交流会～

日時 平成 24 年 2 月 11 日(土) 11 時 00 分～14 時 00
 会場 KKRホテル札幌 2 階 レストラン「マイヨール」
 (札幌市中央区北 4 条西 5 丁目)

<ゲスト>

王 洪偉	ワン ホンウエイ	北海学園大学院生	(中国)	M
于 嵐	ウ ラン	同夫人	(中国)	F
Bernard Teele Matsoso	バーナード テル マツソツ	千歳高校 A L T	(南アフリカ共和国)	M
Kristen Fredrich	クリスティン フレッドリック	千歳高校 A L T	(アメリカ)	F
Sandra Li	サンドラ リー	札幌市在住	(ドイツ)	F
child (Emma)	エマ			
Melanie A. Yamazaki	メラニー・ヤマザキ	恵庭市在住	(ニュージーランド)	F
child (Sean)	(ショーン 渚音)			
Chris Juday	クリス ジュディ	札幌市在住	(アメリカ)	M

概要: この国際交流ランチセミナーは、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の楽しい時間を共有しています。今回は、北海学園大学の留学生、千歳高校 A L T、札幌圏在住の外国人など、7 名をゲストとしてお迎えしました。(ほんとは 11 名くらいのはずでしたが…)このセミナーは、今回で 32 回目になります。参加者は、合計(36+7)43 名でした。(通訳は、会員の山崎 秀樹さんをお願いしました。)

このセミナーは、堅苦しいセレモニーは省略して、各テーブルごとの約 3 時間の交流を主目的として実施しています。ここには、紙面の都合上、各ゲストの挨拶スピーチの概要だけをご紹介します。王さんご夫妻は、所用のため、少し早目に退席されましたので、スピーチをいただけませんでした。

特に今回は、岩田テツ子さん(梅后流師範:櫻川凰有)の江戸芸かっぽれ「奴さん」「梅は咲いたか」2 曲の特別出演があり、すばらしい古典芸能を堪能しました。ありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

また、王さんが、各テーブルをまわって、マジックショーを楽しませてくれました。ありがとうございます。(スピーチをお聞きできなかったのは残念でした…。)

1 クリス ジュディ (米国・男性・札幌市在住)

みなさんこんにちは。私は、クリスといいます。生まれは、アメリカ インディアナ州インディアナポリスの出身ですが、テネシー州のナッシュビルから日本にきました。札幌の「恵みキリスト教会」で音楽指導の仕事をしています。

バレンタインデーには、アメリカでは男性が女性に贈り物をしたり、食事に連れて行ったりします。日本と違い、男性から女性にすることが多いと思います。気の利いた男性はバラの花

を愛する女性に贈ったり、豪華なレストランに食事に連れて行ったりなどすることが多いです。私自身「気の利いたよき夫」でありたいとおもいますので、月曜日には妻を食事に連れて行き、花を贈ろうと思っています(笑い!)。

私は、このランチセミナーのゲストは2回目です。今日も、お招きいただきましてありがとうございます。皆さんとの交流を楽しんでいます。

2 バーナード テレ マツォツ(南アフリカ共和国・男性・千歳高校ALT)

みなさんこんにちは。はじめまして。私は、南アフリカ共和国のヨハネスブルグから来ましたバーナードです。

南アフリカ共和国の主な都市は、ヨハネスブルグ[注：人口約 700 万人]が一番大きくて、首都だと思っている人が多いのですが、首都はプレトリア[注：人口 120 万 9,000 人]です。ちょうどアメリカの首都がニューヨークではなく、ワシントンであるという関係に似ています。

私の出身の州は、ダイヤモンドや金が沢山取れるので豊かな州のひとつですが、私は、ダイヤモンドを持っていません…(笑い!)

バレンタインデーですが、南アフリカのバレンタインデーは、主に子供や高校生が楽しむ行事です。大人になってからはあまりしないと思います。主に学校で贈り物を交換しあったり、好きな人に愛を告白したりする日です。恥ずかしがりやの男子高校生が、好きな女子生徒に「Will you be my Valentine? 」といしながら告白するのに良いチャンスでもあります。今日は、とても楽しんでいます。ありがとうございます。

*南アフリカ共和国 [注：アフリカ大陸最南端の国。1910 年英国より独立。多民族国家で、11 の公用語をもつ。金やダイヤモンドの世界的産地でアフリカ最大の経済大国。総人口約 4,932 万人。国土面積は日本の 3 倍強。宗教は 8 割がキリスト教で、残りはヒンドゥー教・イスラム教など。]

3 クリステン フレドリック(米国・女性・千歳高校ALT)

みなさんこんにちは。私は、クリステンです。アメリカのバレンタインデーは、日本のバレンタインデーと本当に違うと思います。日本では、女性が男性にチョコレートを贈るというのでびっくりしました。

先ほどもありましたように、アメリカでは、男性が女性にチョコレートを贈ります。時々、男性は彼女か奥さんに高価な贈り物をしたり、食事に誘ったりしますが、私のように独身の身にとってはちょっと寂しい日でもあります。でも、今日は、ここで皆さんとの新しい出会いができて、とてもうれしいです。

アメリカでは子供から大人まで、バレンタインデーをお祝いします。小学校ではクラスで、カードやお菓子をお互いに交換し合います。子どもは、ふつう、小さいハート形のお菓子を貰います。そのハートには、「Be Mine, Love You, True Love」というメッセージが書いてあります。美味しくありませんよ。でも、子どもはそれが好きです。

高校生くらいになると、恋愛を意識するようになり、男の子が女の子に贈り物をして気持ちを伝えたりもします。アメリカには、ホワイトデーはありませんよ。また家族の中でも、クッキ

一、キャンディーやチョコレート、花なども贈り合います。

私の母は、私にバラの鉢植えを贈ってくれたりもしました。大人になると男性から女性にチョコレートや、カードや花束などを贈ります。今日は、お招きいただき、ありがとうございます。

4 メラニー ヤマザキ (ニュージーランド国籍・女性・恵庭市在住)

こんにちは。山崎メラニーといます。ニュージーランドでは、バレンタインデーには、好きな人同士が、お互いにプレゼントを贈りあう習慣があります。チョコレートのほかに、花束やプレゼントなどを贈ります。

そのほか、日本ではあまり見られませんが、カードにお互いに対して思っていることをメッセージにして交換する習慣があります。伝統的な風習としては、うるう年のバレンタインデーでは、特別に、女性から男性にプロポーズできるという習慣が以前はあったようです。

5 サンドラ リー (ドイツ・女性・札幌市在住)

ドイツでは、バレンタインデーの習慣は最近になって行われるようになってきたと思います。男性が女性に対して、花やジュエリーなどを贈ったり、素敵なレストランへ食事連れて行くことが一般的です。日本のような、手作りチョコレートを作るという習慣はあまり見られません。私自身、ドイツにいたときから一度もバレンタインデーに贈り物をもらったことがないのでちょっと寂しい感じです。<ここで、娘のエマちゃんがマイクを握って発言：「私はユニコーンが好き！色はピンクと紫が好きです！」(笑い)>



北海道開拓記念館北方文化共同研究事業 2011 年度マサチューセッツ州調査報告
北海道開拓記念館学芸第三課学芸員 三浦泰之・山際晶子

はじめに

北海道開拓記念館では、1990(平成2)年以来、5か年を一つの区切りとして、北海道と姉妹州関係にある地域の博物館などと共同研究事業を続けてきました。2010(平成22)年からは「北方地域の人と環境の関係史についての研究」をテーマに、5年間の事業を進めています。その一環として、私たちは、2011(平成23)年9月から10月にかけての7日間、マサチューセッツ州内で調査をする機会に恵まれました。主な調査内容は、以下の通りです。

マサチューセッツ大学アマースト校図書館が所蔵する、明治初期に鉱山開発関係のお雇い外国人として来日したB・S・ライマンの旧蔵資料(ライマン・コレクション)の調査。

ピーボディ・エセックス博物館が所蔵する、明治10年代に来日し、大森貝塚を発見したことで知られる動物学者エドワード・S・モースの収集資料(モース・コレクション)の調査。特に、幕末維新期に箱館で活動した絵師平沢屏山筆のアイヌ絵など、アイヌ民族が描かれている絵画資料の調査。

主に19世紀に盛んに行われたアメリカ捕鯨の基地港の一つであったニューベッドフォードにあるニューベッドフォード捕鯨博物館の図書館が所蔵する、捕鯨船の航海日誌のコレクションから、北海道近海を訪れた捕鯨船に関する資料の調査。

いずれも、限られた時間の中での駆け足の調査でしたが、興味深い資料の数々を見ることができました。これらの中から、今回は、ライマン・コレクションの調査について、ご紹介したいと思います。

ベンジャミン・スミス・ライマンの生涯とライマン・コレクション

マサチューセッツ州ノーサンプトンに生まれたライマン(1835~1920)は、ハーバード大学で法学を修めた後、ヨーロッパで地質・鉱山学を学び、帰国して地質・鉱床調査などに携わりました。やがて、その経験が買われ、1873(明治6)年、北海道開拓のために新政府が設けた開拓使に地質学・鉱山学教師として招かれました。そして、1873(明治6)年から1875(明治8)年の3年間、1年あたり最長150日間にわたり、北海道内の実地調査を行っています。この成果をまとめた報告書や地図は、北海道の鉱山開発の基礎になったと言われています。その後、1876(明治9)年には開拓使から内務省、次いで工部省に移り、本州・四国・九州地方における地質・油田調査などに携わりました。1881(明治14)年に帰国した後は、ペンシルベニア州立地質局副長や鉱山会社の顧問技師などを務めています。

ライマンの死後、彼の旧蔵資料は米国哲学協会、ペンシルベニア歴史協会、ノーサンプトンのフォーブス図書館に分割して寄贈されました。現在、マサチューセッツ大学アマースト校にあるライマン・コレクションは、この内、フォーブス図書館の資料群を受け継いだものです。

5,000点に及ぶと言われるライマン・コレクションには、ライマンの日本滞在に関わる日本関係資料約2,000点が含まれています。その概要としては、親日家で日本文化に関心を持っていたライマンが収集した江戸時代から明治初期にかけての広い分野にわたる書籍類、ライマン自身の書簡控え

綴を含む書簡類、各地での地質・鉱山調査に関わるフィールドノートや会計帳簿類、東京平河町に構えた自宅での日常生活に関わる会計帳簿類、地質・鉱山調査の成果をまとめた著作や地図、などが挙げられます。北海道開拓記念館では、1995(平成7)年、特別展「ライマン・コレクション 明治初期の北海道とマサチューセッツ州の交流」を開催し、ライマン・コレクションの中から、ライマンの北海道での活動に関わる資料を中心に借用・展示しています(その詳細は、特別展の図録をご参照ください)。

今回の調査は、この特別展に絡んで過去に行われた調査を補うという意味合いがありました。過去の調査では、ライマンの暮らしに関わる資料はほとんど対象とされませんでした。幾帳面な性格であったと言われるライマンは、日本滞在中のほぼ全期間にわたって会計帳簿を残しています。また、すべてではないにしても受け取った領収書類も保管しています。これらの会計書類の分析を通じて、ライマンがどのような食事をしていたのか、どのような日用品や書籍を購入していたのか、など、滞在生活の具体的なようすを明らかにしたいと考えたことが今回の調査の背景にありました。文明開化期の日本に滞在した外国人の日常生活を知り得る史料としても、ライマン・コレクションは貴重です。

例えば、図1をご覧ください。これは、1876(明治9)年4月3日から15日にライマンが「三号試験場払下物掛」から「牛乳」6升(約10.8リットル)を1円60銭で購入した際の領収書です。「三号試験場」とは、開拓使が東京に設けた農場試験場の一つです。そこでは、開拓使がアメリカなどから輸入した農作物の栽培や牛や馬の飼育などが行われ、希望者には農作物などの販売もなされていました。後世の回想録によれば、この試験場には「文明開化の欧米風が吹きまくっていた」と言います(篠田鑛造編『明治百話』(四条書房、1931年刊。岩波文庫として復刻)。東京で生活した外国人にとって、西洋の農作物などが入手できる開拓使の試験場はとても身近な存在だったのではないかと思います。そして、ライマンも身近に感じていた一人だったのではないのでしょうか。また、図2は、1878(明治11)年1月から5月にかけての金銭の出入りを記した帳簿の一節です。2月9日の部分を見ると、「西洋はな」「うど」「さつまいも」に加え、「蝦夷方言藻汐草」というアイヌ語辞書を購入していることがわかります。

今後、今回調査したライマン・コレクションの詳しい分析を通じて、日本滞在中のライマンの暮らしについて、具体的に明らかにしていきたいと考えています。(文責：三浦泰之)

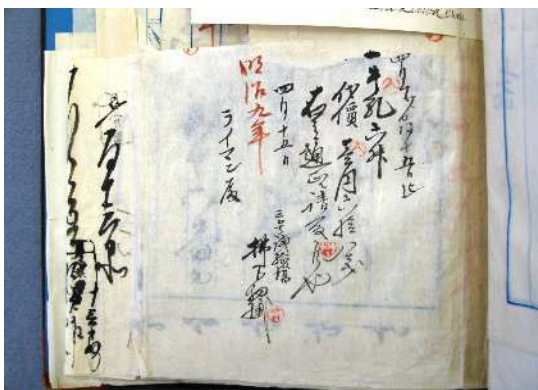


図1 ライマン宛での領収書
(ライマンコレクション Box18「Scrapbook」(小)より)

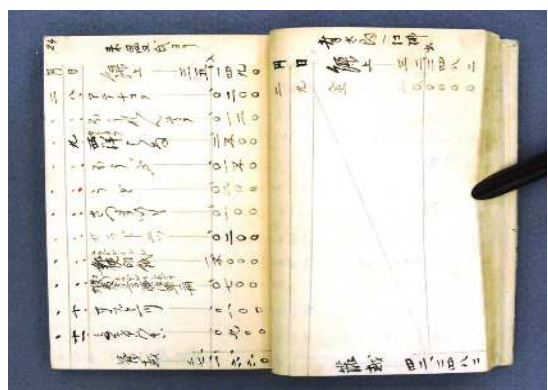


図2 ライマンによる会計帳簿
(ライマン・コレクション Box20-48「日記」より)

～スプリングフィールド市との交流20年目を迎えて～

「また、絶対くるからね。」 「一生忘れない思い出をありがとう」 涙で声にならない声で、別れを惜しむ滝川市内の中高生とマサチューセッツ州ロングメドー町の高校生。毎年10月に見られるこの光景は、滝川市と(社)滝川国際交流協会が協働で20年以上にわたって実施している「ジュニア大使訪問団事業」の一幕である。

スプリングフィールド市は、マサチューセッツ州の州都ボストン市から西へ140km、車で2時間程の所に位置しており、同州西部の中心都市で、滝川市とほぼ同緯度、冬は雪が積もる滝川市とよく似た気候である。



ロングメドー高校での「よさこいソーラン」披露



ホストファミリーと抱き合って別れを惜しむ

ジュニア大使

350年の歴史に培われた落ち着きと、再開発による近代的な建築が見事に調和し美しい景観をつくるスプリングフィールド市の人口は約16万人、バスケットボール発祥の地としてその名が広く知られている。

1989年に、市民訪問団15名がス市を訪問したのをはじめ、元スプリングフィールド市長メアリーE.ハーリー氏が滝川市との親密な交流を熱望し1989年9月22日を「滝川市の日」とすることを宣言するとともに、スプリングフィールド市議会を代表して、市議会議員ロバートT.

マーケル氏(元スプリングフィールド市長)が

両市の姉妹都市関係を確立することを宣言した。

これを受け滝川市では、1990年にはじめて「地域の将来を担う中学生・高校生を海外へ派遣し、国際的視野を広め、国際理解・国際協力への意識を育てる」ことを目的とする「ジュニア大使訪問団」を派遣した。また、「市民レベルでの交流を行い相互理解を深める」ことを目的とする「市民訪問団」の派遣も行い、1993年8月7日に姉妹都市提携をかわした。昨年度までに延べ300名以上が滝川市からマサチューセッツ州を訪れる一方、延べ130名の方々がマサチューセッツ州より当市を訪問し、言葉や文化の壁を乗り越え、国や人種を越えた友情を育てている。

第21回を迎えた本年度の「ジュニア大使訪問団派遣事業」は、10月19日～25日の7泊8日間の日程で中学生3名、高校生4名、団長1名、随員2名の合計10名を派遣し、スプリングフ

フィールド市並びに隣町であるロングメドール町を訪問し、ロングメドール高校での授業体験、心温



ホール・イン・ザ・ウォール・ギャングキャンプ視察

まるホームステイ、また、滝川市が現在進めている難病を抱える子ども達のための施設「そらぶちキッズキャンプ」のモデルである「ホール・イン・ザ・ウォール・ギャングキャンプ」の訪問などを通して、参加者に大きな感動を与え、将来の夢や目標の形成にも大きく寄与した。

ジュニア大使訪問団から始まった交流は、年々その範囲を広げ、2001年2月5日には「姉妹校提携合意が両校の生徒、教職員の交流に寄与すると共に、両都市間の姉妹都市交流をますます活性化し、究極的には両国家間のよ

り良い意思の疎通と理解に繋がることを期待する」ことを目的に「滝川西高等学校とスプリングフィールド工科高等学校姉妹校提携書」が調印され、2006年にスプリングフィールド市側の理由から、隣町であるロングメドール町並びにロングメドール高校の協力を得て、今も短期留学生の派遣は続いている。

また、2006年7月21日～30日に、スプリングフィールド市にある「ネイスミス記念バスケットボール殿堂館」からマイケル・助団などの有名選手のユニホームやシューズ等の貴重なコレクションをお借りし、世界初となる「姉妹都市スプリングフィールド市とバスケットボール殿堂館日本移動展」を市内にて開催し、相互交流だけではなく新しい形の姉妹都市交流として脚光を浴びた。

さらに、全米屈指のスポーツトレーナー養成校として日本からの留学生も多いスプリングフィールド大学と滝川市にある國學院大學北海道短期大学部が2010年7月14日に「國學院大學北海道短期大学部・スプリングフィールド大学教育文化交流促進宣言」に調印し、今後の新たな交流が期待されている。



「國學院大學北海道短期大学部・スプリングフィールド大学教育文化交流促進宣言」調印

全国の自治体財政は厳しく、姉妹都市交流や国際交流関連事業が大幅に縮小されている昨今にもかかわらず、関係者の地道な努力により、今年で交流20年目を迎える。20年の間途切れることなく両市との交流が続いていることは、両市市民の思いが形になった結果ということはもちろん、マサチューセッツ北海道協会のスー・ルート会長をはじめとする関係者の皆様のご尽力があつてのことである。

遠く離れた米国との交流ではあるが、今後も先人が築いてきた交流の礎を守りつつ、両市にとって価値のある交流となるよう市民とともに次の20年を築いていきたい。

---事務局短信---

平成24年度 理事会・総会 …… ミニコンサートも予定

平成24年度 北海道・マサチューセッツ協会理事会・総会は、4月25日(水)午後、KKRホテル札幌3階会議室「エルム」で開催予定です。今回のミニコンサートは、山田流箏曲の橋本賀寿井先生をお招きして、心和む十三絃の名曲を鑑賞したいと思います。

理事会・総会は、平成23年度事業報告・一般会計決算報告、平成24年度事業計画・一般会計予算、役員改選などです。皆様のご出席をお待ちしています。

マサチューセッツ州からの訪問団の来札について

昨年は、東日本大震災・大津波の災害、さらに福島原発問題まで加わりまして、アメリカからの訪問団はすべて中止となりましたが、今年は、下記「事業計画一覧」にご紹介の通り3つの訪問団が来札します。それぞれ、「国際交流夕食会」、「三角山登山と昼食交流会」、「国際交流ランチセミナー」を企画していますので、皆様のご参加をお待ちしています。

新入会員紹介 (~2012年3月10日): 敬称略

<個人会員> 泉澤 由美

平成24年度 北海道・マサチューセッツ協会 事業計画一覧

会 議

4月25日(水) 平成24年度 理事会(14:00)・総会(15:10)

* ミニコンサートも実施(会場: KKRホテル会議室)

国際交流ランチセミナー

7月8日(日) 第1回 国際交流ランチセミナー「異文化理解のふれあい」

米国ニューイングランド各州の先生方を迎えてー

<会場: 北大構内 レストラン「エルム」>

10月28日(日) 第2回 国際交流ランチセミナー「ハロウィーン」

<会場: すみれホテルレストラン「ルピナス」>

3月3日(日) 第3回 国際交流ランチセミナー「ひなまつり」

<会場: KKRホテル レストラン「マイヨール」>

2012 名古屋ボストン美術館 特別展鑑賞と善光寺参りツアー

<8月31日(金)~9月2日(日)> (2泊3日の旅)

- 参加者募集要項別紙 ご参加申込お待ちしております!

マサチューセッツ州からの訪問団交流 <詳細別紙>

コンコードカーライル高校グループ(30名) (4月14日・土 ~18日・水)

* 国際交流夕食会 (4月16日・「ツキサップじんぎすかんクラブ」)

ノーブルズ高校短期交換留学プログラム(14名)(6月15日・金~7月1日・日)

* 三角山~大倉山登山と昼食交流会(6月23日・レストラン「ラムダ・インガ」)

ファイブカレッジセンター教育視察団(14名) (7月4日・水 ~10日・火)

* 第1回 国際交流ランチセミナー (7月8日・レストラン「エルム」)



北海学園大学

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

[大学院]

- 経済学研究科 / 経済政策専攻
- 経営学研究科 / 経営学専攻
- 法学研究科 / 法律学専攻・政治学専攻
- 文学研究科 / 日本文化専攻・英米文化専攻
- 工学研究科 / 建設工学専攻・電子情報工学専攻
- 法務研究科 / 法務専攻
(法科大学院)

[大学]

- 経済学部(1部・2部) / 経済学科・地域経済学科
- 経営学部(1部) / 経営学科・経営情報学科
(2部) / 経営学科
- 法学部(1部・2部) / 法律学科・政治学科
- 人文学部(1部・2部) / 日本文化学科・英米文化学科
- 工学部(1部) / 社会環境工学科・建築学科・
電子情報工学科

北海商科大学

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

[大学院]

- 商学研究科 / ビジネス専攻

[大学]

- 商学部 / 商学科・観光産業学科

北海高等学校

HOKKAI HIGH SCHOOL

- 普通科 / 特別進学コース・進学コース

北海学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

- 普通科 / 特進コース・進学コース

学校法人北海学園 理事長 森本正夫

〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL(011)841-1161(代表) <http://www.hokkai-t-u.ac.jp>